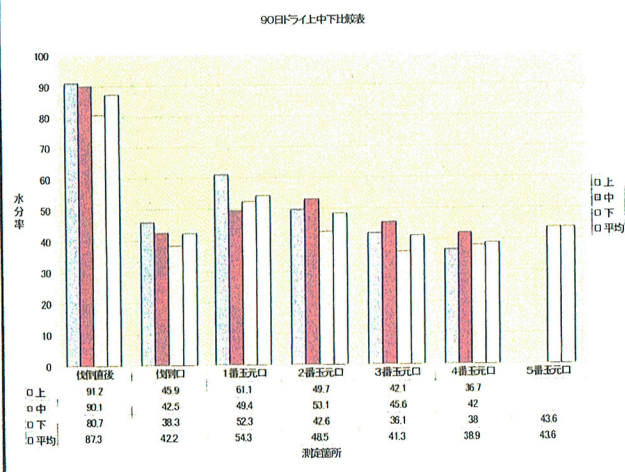
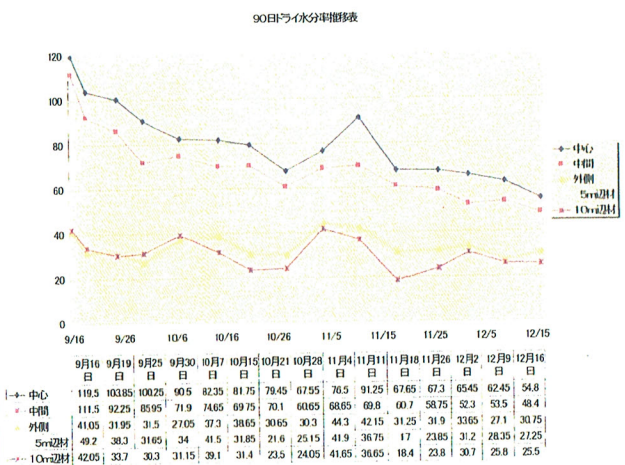


試験経過記録

(様式3-1)



5) 考察

伐採期間の違い(1・2・3ヶ月の変化)による乾燥率調査を実施したが、平成13・14年度実施箇所においては30日乾燥～90日乾燥の差にばらつきがあり、乾燥の変化はあまり見られなかったが、今回の試験においては、90日ドライにおいて効果が認められたと考えられる。結果として、平成13・14年度実施箇所においては、北西向き斜面で日当たりが悪く乾燥しづらかったためと考えられ、今回の90日乾燥の設定箇所は南東向き斜面で日当たりが良く乾燥したものと考えられる。

高齢級間伐林分のドライログ生産については、林間において立木に日当たりを遮られるため、日照時間・照度等が少ない冬期や、谷・沢等の湿気の多い所は特に乾燥しづらいが、南向きの山腹傾斜地であれば、日当たり良好であり乾燥出来るものと考えられる。今後は、長期間(4～6ヶ月)の乾燥や夏季においての間伐試験等も課題として考えられる。

4 末木枝条の処理検証

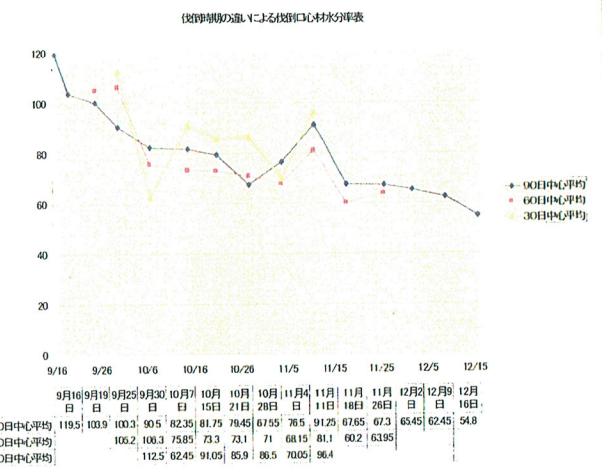
末木枝条については先山にて極力枝打ちを行ったので、土場搬入は最小限に抑えることが出来たが、造材時に発生した末木枝条については、トラックで運搬・搬出を実施した。

プロセッサ造材により出る末木枝条については、チップパー等により粉碎して木質バイオマスとして資源の有効利用を図るか、施肥として林内散布することが考えられる。

5 工程調査

参考として各工程人工数を集計した。

作業種	伐倒	荷掛手	荷外手	合図者等
人工数	57.500	19.000	18.875	40.375
作業種	クレーン運転	プロセッサ	ブーム集材	
人工数	18.750	19.750	20.250	
作業種	架設	撤収	ブーム運転	作主任者
人工数	30.375	10.250	2.750	7.250
作業種	調査	共通		計
人工数	28.875	137.125		411.125



記載要領 1 調査結果及び考察を記入する。
2 状況写真は別途整理する。

(様式 6)

森林技術センター



試験地林内



試験地林内

去川国有林256ぬ林小班



試験地 作業道終点

状 況 写 真

(様式 6)

森林技術センター



1号線(先柱へ)



2号線(先柱より)



3号線(先柱より)



4号線(先柱より)

(様式 6)

森林技術センター



5号線(先柱より)



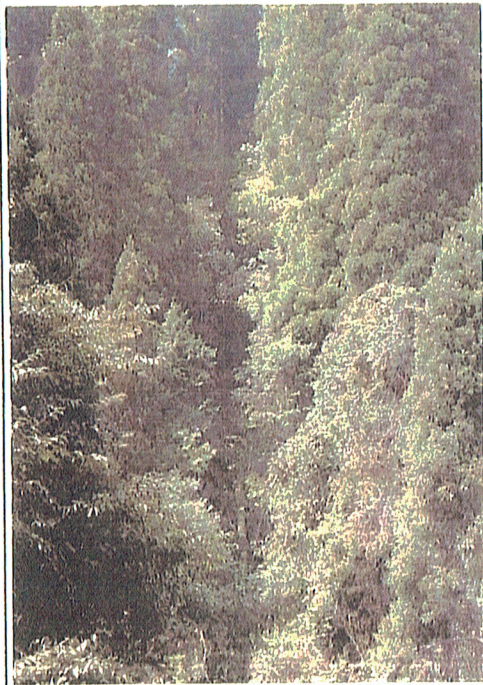
7号線(先柱より)



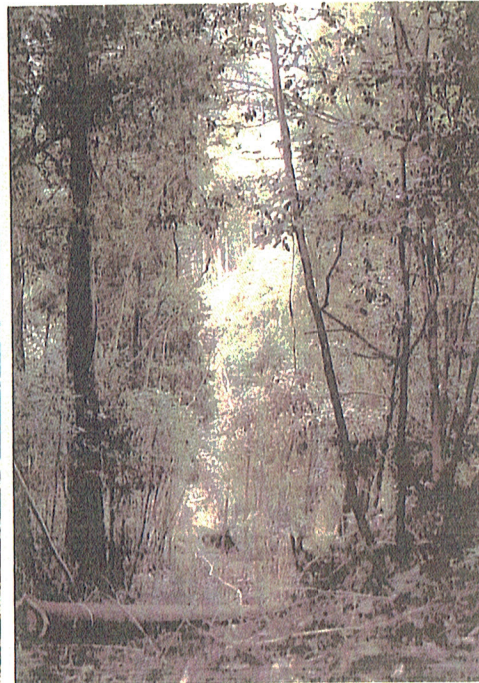
6号線(先柱より)

(様式 6)

森林技術センター



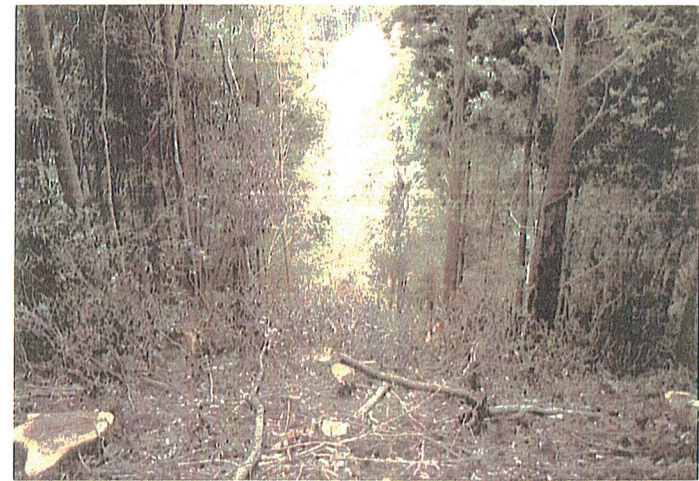
8号線(元柱より)



8号線(先柱より)



9号線(元柱より)



9号線(先柱より)

状 況 写 真

(様式 6)

森林技術センター



10号線(先柱より)



13号線(先柱より)



12号線(先柱より)



13号線(元柱より)